

いさわ



来場者も積極的に発言をした討論会

岩手と秋田を結ぶかつての主要交通路であった仙北街道の踏査20周年を記念した「仙北街道を語るつどい〜いのちをつないだ千年の道」は9月13日、胆沢文化創造センターを会場に行われ、約120人の参加者は仙北街道がつなぐ歴史と人々の交流に思いをはせました。

当日は山岳ガイドとして活躍する、秋田県出身の高桑信一さん(ろうまん山房代表)による「歴史の道、古道の魅力」と題した講演や秋田県東成瀬村と奥州市の代表者などによる討論会をとおして、来場者は街道の魅力や街道をどのように後世につないでいくかについて考えている様子でした。

仙北街道を語るつどい
古道がつなぐ交流に思いを

まちの話題



衣川区の月山国有林内で、平泉文化財の修復・維持に必要な木材を供給する森づくりに超長期的に取り組む「平泉古事の森」植樹作業が9月26日、同林内で行われました。衣川小と衣里小、平泉町の児童計101人を含む約200人が参加し、ヒバやケヤキの苗木計250本を植えました。

「古事の森」づくりは作家の立松和平さんが提唱した活動で、歴史的建造物の修復に必要な資材をその地元で安定して供給するための森づくりとわが国固有の木の文化を未来へ継承していくことを目的とするものです。「平泉」の取り組みは全国で10カ所目、東北では初となります。

当日は立松さんも参加し、児童らとともに和やかな雰囲気の中植樹作業に取り組みました。作業終了後、各小学校の児童代表が「平泉古事の森づくり宣言」をし、将来へ向けて森を守り育てていくことを誓い合いました。

未来へ伸びる苗に思い込め

月山国有林で「平泉古事の森」づくり



植樹を終えた参加者全員で記念撮影

まえさわ

笑顔で植樹作業に汗ぬぐう

第2回奥州万年の森植樹祭

第2回奥州万年の森植樹祭が9月20日、前沢区字石田の奥州万年の森公園で行われ、親子やグループなど約400人の参加者が約5,500本の広葉樹の苗木の植樹に汗を流しました。

この植樹祭は、市民が本物の森づくりを通じて森林が持つ機能や自然環境、生命の大切さを学ぶ機会とすべく



植樹作業で満面の笑顔に

昨年に引き続き開催されたもの。植樹祭のアドバイザーを務める横浜国立大学名誉教授の宮脇昭氏による植樹指導の後、参加者は20人ほどのグループに分かれて作業を進めました。大人がスコップで掘った穴に、子どもが苗木を置き丁寧に土をかぶせていくなど、1時間半ほどですべての苗木を植えました。

尺八の伴奏に合わせ唄熱唱

第10回萩刈唄全国大会 in 衣川

自慢ののどを披露する参加者



第10回萩刈唄全国大会 in 衣川は9月12日、サンホテル衣川荘で行われました。この大会は、馬産地であった衣川区で昔から親しまれてきた萩刈唄を保存・伝承し、全国的に愛唱されるように願って毎年開かれているものです。こしは10回目の記念大会となり、北は八幡平市、南は仙台市から51人が出場し、約200人の来場者を前に自慢ののどを披露しました。

記念大会に合わせ、当日は歴代の優勝者が集うチャンピオン大会も開催。グランドチャンピオンには伸びのある歌声を披露した、第8回優勝者で地元衣川区の千葉正司さんが輝きました。

えさし

江戸時代にタイムスリップ

西沢目大名行列が6年ぶりの開催

梁川地区の市街地を練り歩く一行



平成15年以来6年ぶりの開催となる、市無形民俗文化財「西沢目大名行列」が9月12日、江刺区梁川の中心街で行われました。同保存会(菊池喜美雄会長)が主催するもので、奴や武士に扮した総勢70人による一行が、独特の「所作」を行いながら練り歩きました。

この行列は江戸時代に梁川地区を治めていた領主小梁川氏が、毎年仙台まで往復した行事を再現したもので、明治6年(1873年)に小梁川館に近い西沢目集落の人々によって再現され、現在まで伝承されているものです。沿道に詰め掛けた大勢の観客は、現代に再現された絢爛豪華な行列を心ゆくまで楽しんでいました。

一つになって踊りを楽しむ

奥州 Yosakoi in みずさわ

開催を重ねるごとに盛り上がりを見せる「奥州 Yosakoi in みずさわ」(同実行委員会主催)は9月20日、水沢駅通りなど5つの会場で行われました。全国各地から62チーム、約2000人の踊り手が参加し、演舞や総踊り、旗の競演を熱く繰り広げました。

イベントとしてすっかり定着したことや天候に恵まれたこともあって、ことしもたくさんの観客が来場し、次々と披露される迫力ある演舞を堪能しました。演舞が終わると観客たちは、プログラムに付いている「感動投票シール」をお気に入りの踊り手に張り、一体となってよさこいを楽しんでいました。



大きな歓声が飛んだ地元・幻夢伝

みずさわ